
全国大会（岡山大会）に参加して

北海道国際理解教育研究協議会
 会長 大泉 弘

去る8月5日～7日迄の3日間、岡山市の就実女子大学を会場に、今年度の全国国際理解教育研究大会が開催された。

国際理解教育の推進は、時の教育の重点課題になっていることもあり、研究大会には、全国各地から700名を越す参加者があり盛会であった。

本道からも釧路の藤原道副会長をはじめ7名の参加者があった。

中でも、第3分科会「学校現場における国際理解教育の現状と課題」では、帯広市立花園小学校の船越洋二先生が、「世界と結ぶ授業を創造して」のタイトルでの授業実践の発表があり、全国的にも高い評価を得た。

記念講演は、国際ジャーナリスト吉田康彦氏による、「日本人、国際人、地球人」のテーマで行われ、好評であった。

吉田氏は、NHK海外特派員を経て、国際原子力機関の広報部長を勤めた経歴もあ、本人の体験をまじえてグローバルな立場から多くの示唆をあたえてくれた。

(一部を紹介する)

今、世界の動きは、まさに激流の中に身を置くという表現が相応しい。ソビエト連邦の崩壊をはじめとして、世界は変革を求めている。しかし、日本国や日本人は、これらの動きに鈍感である。

日本という国は、やはり特殊な国であり、理解してもらうためには説明が必要である。これは、社会の諸制度（システム）が外国と異なっていることもあるが何とんでも日本人の思考や行動パターンが理解できないようである。例を挙げれば、日本はまだ、肩書き、学歴を重んじる社会であり、人を一定の枠にはめた

がる。だから、一度親方日の丸を捨てて出ていったら、帰国しても自分の居場所がない。変わったものはハジキ出す。こんな硬直した社会が日本の至る所でみられるからだ。

これに反して、今ヨーロッパは超国家、脱国家の動き—ECの統合が始まっている。今年は、世界の国々で選挙が行われる年である。多くの国々では流れをかえる動きがみられる。スエーデン、イスラエルがその例である。恐らくアメリカの選挙にも流れの変化がみられるのではないか。しかし、日本の参議院選の結果は何も求めない現状維持の結果であった。自民党をはじめ、主だった政党が、勝った、勝ったと叫んでいる。こうした結果を、どう読めば良いのか日本人にも戸惑いがある。

PKO問題があれ程国会を二分した問題になったわりには、国民が醒めた態度であり、まして日本が世界の流れを変えていこうという意気込みもみられない。こうした日本や日本人に、世界は大きな期待を持ってないだろう。

日本の現状を端的に表現した言葉に「技術は一流、経済は二流、政治は四流」という表現があるが、製品を作り出すことはたしかに一流だが、日本よりすぐれた技術を持っている国は他にいくつもみられる。

いま、UNTACや世界環境会議にみられるように、世界は国連も含めて、日本から如何にして金を引き出す（援助）かの方策を練っている。世界の日本への期待は、金の援助での期待であり、これに応えなければ日本は孤立の道を辿るであろう。

今、地球はひとつという考えで、「国際人から地球人へ」と考えの広がりがみられる。こうした現状を踏まえて、日本が国際社会において、日本の役割・責任を果たすためには、金銭的な援助だけでなく、日本人が自ら率先してアイデアを出し、世界の人々を説得してまとめていくという動きをとらなければ、自ら墓穴を掘ることになるであろう。

何よりも、日本や日本人としてもスタンス、アイデンティティを持つことが、今一番強く求められることである。



全国理事会報告

北海道国際理解教育研究協議会

会長 大泉 弘

全国国際理解教育研究大会に先立ち、全国理事会が備前教育会館で開催された。

理事会では、各府県の活動及び推進状況の報告があり、各地で創造的な実践が行われていることを知ることが出来た。とりわけ、本道の実践は、全国的にも高い評価を得た。

理事会では、次の件が提案され、一部決定をみたものもある。

1. 全海研の名称が、「全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会」と改称された。
2. 本会の年会費が2000円⇒4000円と提案されたが、支出状況を見ると値上げも止むを得ないという声が強かった。徴収方法も加えて今年度各府県での取り組み要請があった。

上記の件については、全海研会員には、今年度早々に提案説明がされているはずですが、その他につきましては、後日機会をみて報告するつもりであります。

来年度、全国大会は東京で、8月4、5、6日の3日間です。

ご案内 ★★★★★★★★★★★★★★

*** 平成4年度 ****
*
* 第2回 全国海外子女教育研究協議会北海道ブロック大会 *
* 第13回 北海道国際理解教育研究大会 江差大会 *
* 第10回 檜山管内国際理解教育研究大会 *
*

1. 主催 全国海外子女教育研究協議会 北海道国際理解教育研究協議会
江差町教育委員会 檜山国際理解教育研究会
2. 後援 日本海外子女教育振興財団
北海道教育委員会 江差町
北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会
檜山校長会 檜山教頭会 檜山管内教育委員会連絡協議会
檜山管内教育研究団体協議会 檜山管内青少年婦人国際交流センター
檜山連合父母と先生の会
3. 協賛 NHK函館放送局 北海道新聞社函館支社
北海道通信社

平成4年度

第2回 全国海外子女教育研究協議会 北海道ブロック大会

第13回 北海道国際理解教育研究大会 江差大会

開催要項

第10回 檜山管内国際理解教育研究大会

大会主題

広い心を持ち、世界へはばたく児童生徒の育成
～発達段階をふまえ 地域に応じた国際理解教育をどうすすめるか～

- 目的** 現在我が国は、政治・経済・文化・スポーツ等あらゆる分野において国際化が急速に進んでおり、こうした中において、国際社会に貢献し、信頼される日本人の育成は、教育に課せられた重要な課題となっている。私達は、これまでも全道各地において研究大会を開催し、それぞれの成果を得てきているところである。今後は、人間尊重の精神の一層の涵養を図ると共に、学校と地域との連携をさらに深め、すべての児童生徒が世界に大きく目を開き、国際社会に生きる日本人としての資質を身につけることを願い、歴史と伝統に育まれた檜山において本大会を開催するものである。
- 期日** 平成4年11月20日(金)・21日(土)
- 開催地** 江差町
- 会場** 江差町立江差小学校 檜山郡江差町字本町170
☎ 01395-2-0140 (開会式・授業会場)
江差町文化会館 ☎ 01395-2-5115 (講演・閉会式)
ホテルニューえさし ☎ 01395-2-3311 (交流懇親会)
- 協力校** 江差町立江差中学校
北海道江差高等学校
- 大会日程**

	15:00	16:00	17:00	18:00	20:00						
第1日目 (20日)	大会役員打合せ (江差町立江差小学校)		司会・提言・記録 助言者打合わせ	自由時間	交流懇親会 (ホテルニューえさし)						
第2日目 (21日)	8:30	9:00	9:50	10:00	10:40	12:20	13:20	13:50	14:00	15:30	16:00
	受付	小・中・高 授業公開	開会式	分科会	昼食・移動	アトラクション	講演	閉会式			
	(江差町立江差小学校)						(江差町文化会館)				

7. 記念講演

講師 NHK解説委員室解説主幹 柏倉康夫氏
演題 「統合をめざすヨーロッパと日本」

8. 授業公開 (授業は全て江差小学校で行います)

江差小学校 1年 生活科 指導者 吉岡 栄
3年 図工科 指導者 中川 良一
5年 社会科 指導者 買手 郁史
江差中学校 2年 音楽科 指導者 内藤 良直
3年 理科 指導者 青木 治真
江差高等学校 1年 英語科 指導者 板東 三春
英語指導助手 (デビット アンソニーブラウン)

9. 分科会

第1分科会 小学校における国際理解教育をどう進めるか
提言者 函館市立大森小学校 教諭 大塚 信夫
第2分科会 中学校における国際理解教育をどう進めるか
提言者 七飯町立大沼中学校 教諭 田口 公紀
第3分科会 高等学校における国際理解教育をどう進めるか
提言者 北海道檜山北高等学校 教諭 林 裕司
第4分科会 地域における国際理解教育をどう進めるか
提言者 江差町教育委員会 社会教育課長 新木 秀幸

10. アトラクション 江差追分と江差追分踊り
(江差高等学校・江差南高等学校 生徒の出演)

11. 大会参加申込みについて

費用 大会参加料 3,000円 (含資料代)
昼食代 700円 (21日昼食)
交流懇親会 5,000円 (ホテルニューエさし)
宿泊料 7,000円 (一泊二食付)
申込方法 別紙申込書に記入のうえ、必要経費を添えて下記要領にてお願いします。
申込期日 平成4年10月12日(月)
申込先 江差町立江差小学校 教頭 池田 勝俊
〒043 檜山郡江差町字本町170番地
☎ 01395-2-0140

12. お願い ◎駐車場 ・駐車場が大変狭いので、近隣の方と乗り合わせでおいで下さい。
・会場周辺の係員の指示に従って下さい。
・宿泊の方々は、ホテルに車をおいて徒歩でおいで下さい。

世界に貢献できる日本人の育成

～長期展望に立った実践を～

北海道国際理解教育研究協議会 研修部長

藤原 勲夫

(札幌市立北野平小学校)

21世紀を間近にひかえた今日、地球上はいよいよ狭くなり、各分野でボーダレス化が始まり、人物・金・情報が国境を越えて自由に行き来している状況であります。それに伴い、生活習慣の違いや価値観の衝突・摩擦などが生じ、いろいろな問題を派生しており、グローバルに考え、グローバルに行動できる人材の育成が強く求められております。

しかし、現在、政治、経済、文化、スポーツ等の交流に伴い、海外勤務者、海外旅行者が急増していますが、その交流の中で私ども日本人の持っている特異性が指摘され、諸外国の様々な批判的となっている現状を見逃すことはできません。また、世界の諸国や諸国民間にも人口、食料、資源、環境、貿易、平和等において、解決しなければならない共通の課題があり、この面において日本人の果たすべき役割が期待され、大いなる活躍を切望されております。

このような現状を踏まえる時、学校教育は如何なる時代の変化にも対応し、生涯にわたって豊かに、かつ遅く生きる児童生徒の育成は、私どもの重要課題であります。新学習指導要領の全面実施が今年度の小学校から始まり、年度を追って中学校・高等学校と実施され、私ども未来に生きていく子ども達の教育に携わる者としての責務は、特に大きいものと考えるところであり、国際理解教育の推進に対する国民の期待と要望に着実に応えねばならないと決意を新たにしております。

すなわち、その場、その時の課題に処する対処療法的なものではなく、長期的展望に立つ課題への取り組みであります。尊敬される日本人として個性豊かな独自性と主体性を持ち、「世界に貢献できる日本人の育成」を主眼に日々の創造的な教育活動にあたらねばならないと考えます。

このような日本人を育てるには、小、中、高の連携のもと、自国の文化を知り誇りを持ち、他国の文化を理解し、お互いに尊敬し合う中から、個々の世界観を創り

上げることができる「豊かな国際感覚の育成」を意識した教育がなされなければならないと考えます。

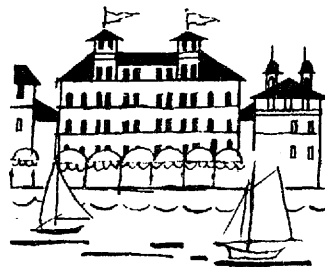
そのため、北海道国際理解教育研究協議会研修部では、新学習指導要領のねらいを受け、学校に於ける国際理解教育の充実・発展、さらに学・社連携による地域に根ざした国際理解教育の推進、そして、帰国教員実践報告集の活用を最重点にあげ、次の様な観点で研究の充実を目指していきたいと思ひます。

1つ目は、学校教育に於ける国際理解教育の充実であります。教育課程審議会の答申の「21世紀に向かって、国際社会に生きる日本人を育成する。」に立って、学校教育では、身近な生活の中から素材を引き出し、いつでも、どこでも、そして、だれにでも取り組める国際理解教育を日常実践を通して求めていきます。

2つ目は、地域に根ざした国際理解教育の推進であります。国際社会に貢献できる日本人の育成も、学校教育における国際理解教育の推進はもちろんですが、社会教育やボランティア活動等で、地道な努力を重ねておられる多くの人々と手を結び、学・社連携による国際理解教育の推進でより一層の効果をあげるものであります。そして、生涯にわたった学習体系の中で、国際理解教育の目標は、その実を結ぶものと考えます。そのためには、地域社会に根ざした国際理解教育のあり方を理解し、「開かれた学校」として、この面での教育諸活動を見直す必要があると思ひます。

3つ目は、実践報告集の活用であります。在外教育施設で多くの困難を克服しながら、海外子女教育に携わってきた帰国教師の貴重な体験を報告集「在外日本人学校での教育の現状と展望」として、研修部で昨年に引き続いて第2集を刊行することになりました。この報告集をぜひ、各学校で国際理解教育を進める上での手引き書として活用して欲しいものです。今後の教育活動の大きな手掛かりとなるものと考えます。

そして、これらの実践を各地の研究会や本研究大会で交流し合い、私どもの実践をより充実したものにしていきたいと思ひます。さらに、全道の諸兄と知恵と力を出し合って、北海道に於ける国際理解教育の充実発展を目指していきたいと思ひているところであります。



北京日本人学校の 細見 浩先生から
まとめて便りをいただきました。

北京日本人学校 細見 浩

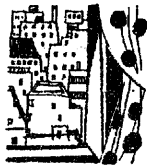
3月も慌ただしく過ぎていよいよ4月に入りました。3月下旬になると少しずつ緑が見られるようになり、梅や桃などつぼみに色がついてきました。ネコヤナギの様に見えていた楊樹の新芽もどんどん下がってきていつもまにか路上に落ちてきていました。その後小さく葉が出てきている様子も見られます。柳はもう黄緑一色に変わりました。レンギョウは黄色い花をいっぱいにつけています。そして、去年4月10日に満開になっていた玉欄花(コブシ)の花がもう散ってしまいました。去年より1週間ほど早い様です。街の街路樹の梅、レンギョウ、中南海の赤い城壁に沿って植えられているコブシとレンギョウが咲いている様子は本当に素晴らしいものです。短いこの1~2週間のできごとです。北京はこれから4月から5月いっぱい花の季節になります。桜、桃、アカシア、ライラック、梨、桐などの花が一斉に咲きその後に、ばたん、しゃくやく、ばらが咲きます。

今年は、あまり雪も降らなくてしかも暖かい冬であった様です。零下10度よりも低くなったことは殆どなく日中は5~6度にもなる日が多くありました。3月に入ると零下になる日はほとんどなく日中も10度を越える日がしばらく続きました。下旬になると15度を越える日が続き、昨日、今日などは23度という暖かさというよりも暑い日になっています。

4月1日は、中日国交正常化20周年を記念しての植樹がありました。日本から毎年中国に来て砂漠を緑に変える運動を進めている鳥取大学の遠山教授を中心に100名ほどの人達との合同の記念植樹でした。北京日本人会、北京商工会議所、一般の参加を合わせて北京在住の日本人200名、中国側から100名ほど全員で約400名ほどの参加でした。メタセコイア(あけぼのすぎ)2000本を植えましたが、中日友誼林と名づけられ、大きな石碑には萬里副首相の揮毫の文字が彫られています。参加することができよい記念になりました。

4月に入り毎日新年度の準備、職員会議で慌ただしく過ごしましたが、4月8日に赴任してくる先生を空港で無事に迎えることができ安心しました。空港で待つ間、去年不安の中でベキン空港に着いたときのことを思い出していました。

いよいよ北京での2年目になります。13日から始まる新年度もまた頑張っていきたいと思っています。よろしくご指導願います。



1992. 5. 25

北京日本人学校 細見 浩

4月13日に始業式・14日に入学式・16日に保護者会・24日に父母總會・第1回学校運営理事会と無事に終わり平成4年度も軌道に乗りつつあります。本年度も派遣されている15名がそれぞれの経験を出し合う中で学級経営を行い学校運営に参画し父母の信頼を得る学校経営を目指しています。

本年度も学校運営理事会の構成は、日本人会会長、副会長、商工会議所副会頭をはじめ大使館関係、企業のトップの方々と構成され望ましい学校運営のために多忙の中運営に携わっていただいています。

5月は、日本の祝日と中国の祝日が合わさり1日から5日まで連休になりました。年間を通してみると国内の休みとほぼ同じで年間の授業日数も239日になります。夏季休業は36日ありますが、冬季休業は11日しかありません。

本年度は、去年に比べ1年間で30名の児童生徒の増加でした。その後も毎月転退に比べ転入が多く現在277名になりました。おそらく本年度中には300名になることが予想されます。それだけ6・4事件の後中国が安定してきているとも言えるのではないのでしょうか。各企業の方々も家族を伴って赴任する人が多くなってきています。

4月中旬から花で埋まっていた北京の街も今は北京の花である薔薇に変わりました。今年は大変に暑い日が続いてすでに30度を越える毎日です。樹木の葉も濃い緑に代わって並木のトンネルになっています。学校の前の学級園と学校園に花の種や野菜・へちま等を植えましたが、雨が少ないので毎日の水遣りが大変な作業になっています。

5月15日には例年行っている北京市内を地図をたよりに歩くウオーキングラリーを実施しました。珍しく前日には大雨でしたので心配しましたが、当日は徐々に晴れて良い日になりました。今年北京市の大きな公園『地壇公園』『月壇公園』『日壇公園』の3か所から縦割り班の20名が一グループとなって目的地の『故宮』の北にある『景山公園』まで歩きました。その間に中国の人と話したり、一緒に写真を撮ってでき上がった後でその写真を送り文通をすること、2元(日本円で50円)で買い物をするなどを計画に入れて実施しました。

子供たちには良い思い出になる行事ですが、綿密な計画で実施しても反省では

多くの課題もありました。一緒に参加してくれた父母のかたがたの協力も大きく無事に終わることができほっとしたところです。

18日からは、修学旅行がありました。去年大変だっただけに、下見も行い旅行社との打ち合わせも十分にしてお発しましたが、やはり中国の交通事情は大変で最後の日になって2両貸し切りのはずの車両に他の乗客が乗り込み思わぬ状況になりました。それでも76名全員の席は確保できていたので何とか無事に北京に帰りましたが、旅行社を通じての旅行であっても何が起きるか分からないのが中国の旅行だということを経験しました。

孔子の里といわれる古い歴史のある『曲阜』・中国の5大霊山の内の最高といわれる『泰山』泉で有名な『済南』を各1日ずつ見ることができ内容的には素晴らしいものでした。

修学旅行から戻ってすぐ次の日は、国際学校・ドイツ人学校・フランス人学校と日本人学校の4校で行っている交流行事の一つの陸上大会がありました。日本人学校以外は土曜日は休みなので参加の対応が違い、出場する児童生徒はほとんどが父母とともに参加していました。また、それぞれの学校では父母のボランティアも多く積極的に協力する姿も見られ、日本人学校の行事の持ち方に大変参考になることが多くありました。

日本人学校の場合は、学校行事として参加していますがどうしても全学年の参加は難しくそのため1・3・5・中学部が参加しています。同じ様に4校で行われる水泳大会には2・4・6・中学部が参加することで対応しています。

会場はペキン体育学院の立派な陸上のためのグラウンドを借りて行っています。学校から会場までは約1時間程かかる所にある整備された競技場です。

去年までは小学部低学年は午前中の参加でしたが、4校がそろってリレーをするために低学年も最後まで参加させてほしいとの希望があり、本年度は最後まで参加することになりました。しかし、当日は大変気温が上がり、それぞれが水筒に持っていった水がなくなり応援に来てくれていた父母の方々に大変協力してもらい飲み物の手配もできましたが、小学部の低学年にとっての一日は応援の時間のほうが長いだけに課題でもあると考えています。

毎日が30度を越す程の厚さが続き既に路上のあちこちで海南地方の西瓜が山のように積まれて売られています。今年は北京の西瓜ももうすぐ売られるのではないかと思います。今のところ一個300円程の様でまだ北京としては値段が高い様です。6月に入りましたらあらためて北京の様子をお知らせしたいと思っています。皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

敬具



1992. 6. 30

北京日本人学校 細見 浩

拝啓、報告の手紙を書きながら発送せずに過ごしてしまい申し訳ありません。

6月もまた慌ただしく過ぎてしまいました。もう既に新年度が始まって3か月が過ぎたこととなります。北京に赴任してからもうすぐ1年半になることを考えると余りに早く過ぎるのに驚いてしまいます。

対外的行事は少ない月でしたが、校内的には水泳教室の開始、父母会役員との懇談会、学校運営理事会、校舎内の全面塗装に係る打ち合わせと契約、臨海教室の計画と父母への説明会、職員研修での日中友好人民公社の見学と懇談会、そして、21日の日曜日授業参観、27日の鳩山文部大臣の学校訪問と続きました。その間に、13日の国際交流水泳大会、日本人会理事会もあり、それらのほとんどが1年を過ごしてもなお初めての対応のような気持ちでした。

6月13日に例年開催されている4校（インター・フランス人学校・日本人学校・ドイツ人学校）の国際交流水泳大会がありました。

会場は、昨年オープンしたばかりの中日青年交流センターの 北京でも最も設備の整ったプールです。日本人学校でも水泳教室を行っているプールです。

企画、運営はドイツ人学校ですが、打ち合わせや係などの大会での協力は参加校全体で行います。

日本人学校では2・4・6・中学部の参加でしたので総合の成績は良くありませんでしたが、それでも入賞者も多く良い大会でした。

学校ができてから4年が過ぎましたがまだまだきれいな学校ではありません。しかし、北京の空気が汚れているせいか、目に見えないような細かい砂や煤煙のためか、校内の白い壁の汚れが目立ち、特に、暖房器の上は黒くすすけていて、壁全体がくすんでしまいました。そこで、望ましい教育環境を整備するということからも5年に一度は校舎内の壁面の塗装が必要であるとの考えから本年度実施することになりました。

業者からの見積もりをもとに学校運営理事会での検討、当初は、校舎内の廊下のみを本年度塗装する計画から、教室も含めて行うことになり、再度の見積もり

を出してもらい、学校運営理事会の承認のもとに、今度は学校建設理事会で検討承認されるという経緯で決まりました。決して中国だからといって工事費は安いものではなく、外国人の施設などの工事価格があって、最終的には25万円、日本円にすると600万円になります。

工事は夏休み中に行うことで工事期間は約1か月の予定です。7月に入るとすぐに業者との工事に係る物品の移動や色の決定などの細かい打ち合わせを行います。9月の2学期にはまた新しい学校に生まれ変わることと楽しみにしていますが、工事中にも進行状況の点検や業者との打ち合わせも必要ですので今年もまた落ち着いた夏休みになりそうです。契約は中日合併企業で実際の工事は中国の企業になります。

6月25日に中日友好人民公社を見学し懇談する機会がありました。昨年から児童・生徒の学校交流を考えていたのですが、昨年の丁度今頃に雹の被害があって実現しませんでした。今年は、児童・生徒の交流の前に職員研修として全員で施設を見学しようとの考えから短い時間でしたが出かけました。

地理的には、歴史的に有名な『円明園』・『頤和園』・『香山公園』の近くにある北京郊外の農村にあります。現在は人民公社はなくなっていますが、名前だけは残されています。人民政府の下に海淀区があり、その下の組織になります。日本からの援助と技術指導、合併のホテルなど日本との関係が最も深い関係にある人民公社です。

42万平方キロの中に1万戸、3万人が住んでいて、農業を中心にしていますが、国営の公司、発電所、農業科学研究所、など5つの所、食品加工や製薬工場、製紙工場、工場工具などの工場が7つあり、中学校2校、小学校10校、養老院、保険所12か所など大変な施設を持った一つの村でもあります。その中の一つの小学校を訪問しましたが、子供たちは明るくのびのびと勉強をしていました。

研修の結果をもとにして現在編集中の副読本の内容などを充実させていくことにしています。

日曜日授業参観には、大変多くの父母の方々が子供の様子を見に来てくれました。丁度この日は前日夜からの雨と朝はまだ曇っていたため父親の参加が多く約70名の参加でした。各教室ともいっぱい教室に入れないうほどでした。その後の学級懇談でも子供の椅子だけではたりずパイプ椅子を準備しなければならないほどでした。特に小学部では低学年、中学部は3年生の進学のこともありほとんど両親が揃っての参加でした。

6月27日には鳩山邦夫文部大臣の学校訪問がありました。大臣夫妻への花束贈呈、歓迎式での国歌斉唱、文部大臣からの子供たちへの話し、校歌斉唱、等の内容でしたが、子供たちも伸び伸びとしている姿に大変喜んでいただきました。

午前9時半から10時半までの1時間程の訪問でしたが、授業をしている教室を全部回り各教室で学習の様子を見て子供達に話しかけたり、質問したりしながらの参観でした。

その後、学校の概要を説明し、体育館での歓迎式に移りました。子供たちの学級園での学習活動を見て、全体での話にかぼちゃと西瓜の接ぎ木を例にしてその苗には二葉が4枚あり丈夫でしかも良い西瓜が取れる優れたものになっている。日本の中だけでなく外国の生活を経験する皆は優れた苗と同じ様に、これからの国際社会で活躍する人になる大切な経験をしているといえるので頑張ってもらいたいと励ましのお話をされました。

6月も本当に慌ただしく過ぎてしまい明日からは7月に入ります。毎日が暑い日で30度を超える日が続いています。

学級園のトマトも茄子もたくさんの実をつけています。へちまもどんどん伸びています。向日葵ももうすぐ咲きそうになっています。もう2m越えています。さすがに日中は30度から37度ほどになりますので各教室ではクーラーに頼る毎日です。

6月に入ってから北京市の郊外で収穫する日本の西瓜と同じ模様の西瓜が道路のあちこちで山の様に積まれて売られています。最初の頃に比べると一個70円程にまで安い値段になりました。北京では生水を飲めないのもっぱら水分は西瓜に頼っている毎日です。丁度今、北京市の郊外の大興というところで西瓜祭をしている様子がテレビのニュースで報道されていました。

暑さの中での毎日ですが健康で過ごしています。5月の初めに肩を痛めたためつい字を書くのを避けていて報告も大変遅れてしまいました。まとめて送りますのでご了承下さい。

皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。